

G Xスキル標準 活用ガイド

株式会社スキルアップNeXt



- 本ガイドは、GXリーグ人材市場創造 WGで策定された「GXスキル標準(GXSS)」にのっとり、WG代表リーダー企業を務めた株式会社スキルアップ NeXtが作成しています。
- GXSSの詳細はGXリーグサイトよりご確認ください
[GXスキル標準\(GXSS\)/GX推進スキル標準\(GXSS-P\)Ver2.0](#)

目次

1. GXスキル標準とは
2. GXスキル標準浸透プロジェクトとは
3. GX推進状況別の活用例
 - 3-1. GX状況別のプロジェクト・活用例の全体像
 - 3-2. フェーズ1 推進体制構築段階
 - 3-3. フェーズ2 算定・計画策定段階(守りのGX)
 - 3-4. フェーズ3 全社実行準備段階(攻めのGXへの移行)
 - 3-5. フェーズ間の移行ポイントと成功要因
4. GX取り組み別の実践ガイドライン
 - 4-1. 取り組み例 1 GHG排出量算定 1-1:Scope1 排出量算定フロー(直接排出)
 - 4-2. 取り組み例 1 GHG排出量算定 1-2:Scope2排出量算定フロー(間接排出)
 - 4-3. 取り組み例 2:グリーン製品開発プロジェクト
 - 4-4. 取り組み例 3:サプライヤーエンゲージメントプログラム構築
 - 4-5. 取り組み例 4:GX投資計画の策定と優先順位付け
5. GXリテラシー標準に準拠した「GXアセスメント」

1. GXスキル標準とは

経済産業省がリードするGXリーグ内の「GX人材市場創造WG」で、GX推進に積極的な様々な業界の企業によって策定されたGX推進に必要なスキルセットです。GX推進体制の構築や人材育成の指針として、活用いただけます。

■ 「GX推進スキル標準」と「GXリテラシー標準」の2つについて策定

GXを推進する人材向けの「GX推進スキル標準」とGXに関わる全ビジネスパーソン向けの「GXリテラシー標準」の2つで構成され、GX推進に必要な人材類型や、保有べきリテラシーやスキルをレベル別に定義しています。



■ GXを推進する人材パターン<類型>を定義

GX推進に必要な職務別に5種類を定めています。

GXプロフェッショナル人材



GXアナリスト

企業活動の環境影響を算定・分析し、削減目標設定や施策立案に不可欠なデータ等を提供し、GX推進の根拠となる情報を体系的に整理・提供する人材



GXストラテジスト

GX推進を企業戦略や経営計画に位置付け、脱炭素化と持続的な成長を両立させるための目標設定や施策の立案・実行を経営視点で主導する人材



GXプロジェクトマネジャー

GHG削減などGX推進プロジェクトを企画・統括し、目標達成に向けた社内外との調整、進捗管理を行い、具体的な成果を実現する人材



GXコミュニケーター

GXの取り組みや成果を市場・投資家・消費者などに向けて効果的に開示・発信し、対話を通じて企業価値の向上を促進する人材



GXインベーター

GXのための革新的な技術やソリューションの研究開発を専門とし、新規性・独自性のある技術開発を通じて、将来のGX実現を支える人材

1. GXスキル標準とは

■ 具体的ロール例

GXプロフェッショナル人材

1つの人材類型の中に、活躍する場面や役割の違いを想定した複数のロールを定義しています。一人の人材が複数のロールを兼ねる、または複数の人材で1つのロールを担うことも考慮し、柔軟な使い方を想定。

GXアナリスト

GHG排出量算定

企業や組織のGHG排出量および製品・サービスのCFPを算定する

GHG排出量分析

企業や組織のGHG排出量データ分析し、組織内の関係者へ報告する

今後新たな環境指標による
新たな算定・分析スキルが必要となる想定

GXストラテジスト

GX経営企画

GX推進における経営資源の配分および進捗管理を行う

GX事業企画・管理

GX関連事業の進捗と収益の確認および分析を行い、新規GX関連事業の創出を支援する

GHG削減計画

組織横断的なGHG排出削減計画を策定し、フォローアップおよびレビューを行う

GX情報開示

非財務情報を取りまとめ、企業評価につながる対外開示の全体方針設計を行う

GXプロジェクトマネジャー

GXプロジェクトマネジメント

スケジュール・コスト・品質を管理しながらGX施策の円滑な実行を推進する責任を担う

GXコミュニケーター

GX IR・広報

外部ステークホルダーと直接対話し、グリーンウォッシュリスクを理解した上で適切な情報開示を実施する

GX調達

GX対応策を策定・実施しサプライヤーのGX基準導入を支援・監督。適切な削減ソリューションを調達する

GXマーケティング・営業

自社のGX目標や削減効果を理解し、製品・サービスを拡販し、社会やクライアントのGX目標達成に貢献する

GX渉外・アライアンス

外部団体との関係構築や参加を通じ市場動向や規制変更、技術革新を把握しGX推進のための外部連携を実施する

GXインベーター

※各業界毎に個別に定義

■ ロールごとにスキルとレベルを定義

各ロールごとに求められるスキルをレベル別に定義しています。

◆ 共通の基本概念

GXSS レベル	GXSSのレベル定義
04	プロフェッショナルとして独力で自社のGX推進の課題の発見・設定と解決・実行をリードすることができる
03	GX推進において範囲（業務領域・部門等）を限定した業務をリードできる。プロフェッショナルとなるために必要な応用的知識・技能を有する。
02	GX推進において上位の指導者のもと、要求された関連業務を担当する。プロフェッショナルとなるために必要な基本的知識・技能を有する。
01	GXの重要性を理解し、基礎知識を有している

◆ 例) 類型: ストラテジスト

「GX経営企画」の場合

定義											
人材類型	GXストラテジスト										
ロール	GX経営企画										
担う責任	GXを通じた持続的な成長を実現するための戦略を、経営層を含む組織内関係者と共有し決定し、GX推進における経営資源の配分および進捗管理を行う										
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> 企業や組織の戦略および事業戦略へGX戦略を組み込んだGX戦略を立案する（経営資源の配分計画を含む） 外部環境情報を踏まえ、企業や組織の事業領域におけるリスクと機会を分析する カーボンファイナンス（CFP）、インターナルカーボンプライシング（ICP）などGXの成熟度を把握し、GX関係部署へ浸透させる 企業や組織の戦略および事業戦略に位置付けられたGX施策をフォローアップする 										
必要となるスキル	<ul style="list-style-type: none"> GXに関する経営資源の配分、KPI設定、外部環境分析などを含む企業や組織の戦略および事業戦略の立案およびフォローアップをリードするスキル マクロおよび事業領域におけるGX関連の中長期的なリスクと機会を把握するスキル（インターナルカーボンプライシングなどGX関連指標やGHG排出削減に関する情報も活用することを含む） GX戦略を実施するにあたり、GX施策の推進策を立案し、実行するスキル 										
他ロールとの連携例	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ロール</th> <th>連携する業務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GHG削減分析</td> <td>削減シミュレーション・算定支援</td> </tr> <tr> <td>GHG削減計画</td> <td>GHG削減の具体的な設計</td> </tr> <tr> <td>GX事業企画</td> <td>GX戦略を事業部門に落とし込み、実行</td> </tr> <tr> <td>GXプロマネ</td> <td>全社横断的なGXプロジェクトの実行管理</td> </tr> </tbody> </table>	ロール	連携する業務	GHG削減分析	削減シミュレーション・算定支援	GHG削減計画	GHG削減の具体的な設計	GX事業企画	GX戦略を事業部門に落とし込み、実行	GXプロマネ	全社横断的なGXプロジェクトの実行管理
ロール	連携する業務										
GHG削減分析	削減シミュレーション・算定支援										
GHG削減計画	GHG削減の具体的な設計										
GX事業企画	GX戦略を事業部門に落とし込み、実行										
GXプロマネ	全社横断的なGXプロジェクトの実行管理										

※各ロールの詳細は、[GX推進スキル標準 \(GXSS-P\) Ver2.0 / 02 ロールごとのGXSSレベル定義](#)をご確認下さい。

2. GXスキル標準浸透プロジェクトの活動例

経済産業省がリードするGXリーグ内の「GX人材市場創造WG」で策定された「GXスキル標準」を企業や組織に広く普及させ、人材育成や組織変革に活用することを目的に、WG代表リーダー企業を務めた株式会社スキルアップNeXtが運営しています。GXスキル標準の活用に関する情報を発信し、実質的な組織変革と人材育成を促進することで、日本全体のグリーントランスフォーメーションを加速させます。

活動内容は[こちら](#)でご覧いただけます。



■ 活用ガイド

本ガイドの他にも、活用の手引きとなる情報や、企業の活用事例を掲載



■ セミナー

GXスキル標準を浸透すべく、定期的に法人向けセミナーを開催



■ 賛同コメント



竹内 純子

U3イノベーションズ合同会社
共同代表 NPO法人国際環境経済研究所理事
東北大学特任教授

GXは、CNそのものが目的ではなく、これを契機として日本の成長戦略につなげることを目指しています。わが国の基幹政策として省庁横断で取り組んでおり、GX経済移行債を活用した20兆円の投資は、いわば、乾坤一擲、最後の賭けともいえるべきものでしょう。しかしGXを進めるうえで、投資の確保や政策の整備以上に重要なのが、人材の確保でしょう。



後藤 宗明

一般社団法人 ジャパン・リスキリング・イニシアチブ

グリーン・リスキリングは、新たなグリーンビジネス創出と既存事業の変革を促し、雇用喪失を防ぐ「攻め」と「守り」の戦略です。労働移動を促し、個人の既存スキルを活用したグリーン分野への移行を支援し、国、自治体、企業、教育機関一体で「GXスキル標準」を活用したグリーン・リスキリングを推進することが、日本の持続可能な未来に繋がると確信します。

3. GX 推進状況別の活用例

■ 3-1. GX状況別のプロジェクト・活用例の全体像

GXを組織に定着させるには、段階的なアプローチと適切な人材育成が不可欠ですGXスキル標準(GXSS)は、各フェーズに応じた人材要件を明確にし、効果的な育成計画の立案を支援します4章では、GX推進の状況を3段階に区切り、具体的な取り組みとGXSSの活用例を示します。

<使い方例>

GXの推進状況を3段階にわけ、3つの軸「Who:体制・役割が明確か」「What:計画が明確か」「How:方法・手段は明確か」で状況を整理しています。

- 自社がどの状況にあるのかを確認下さい。
- 該当する状況の取り組み、GXSSの活用例の詳細を指定のページで確認し、着手すべきことの全体感を捉えましょう。
- 各ロールのレベル別の具体的なスキルは、GXスキル標準本紙で確認ください。

自社のGX推進状況を 確認してみましょう。			【フェーズ1】 GX実行前 推進体制構築段階	【フェーズ2】 守りのGX推進 算定・計画策段階	【フェーズ3】 攻めのGXへの移行 全社的な実行準備段階
			推進体制が整備されておらず、基礎知識も不足しているが、取り組み意欲はある	守りのGX(GHG排出量算定、情報開示等)に取り組み始めているが、まだ体制や実務が完全に整っていない段階	すでにサステナビリティ部門の体制があり、守りのGXについては最新動向をキャッチアップしながらも実施している。これから攻めのGX(事業機会創出等)に取り組みようとしている段階
x:不在・未着手 △:着手開始 ○:推進中					
自社のGX現状	Who 誰がやるのか	推進部門	△	○	○
		実行部門	×	△	○
	What 何をやるのか		×	△	○
	How どう進めるのか		×	×	△
打ち手	具体的取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ● GX推進体制構築 ● GHG排出量簡易算定 ● 社内GX啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本格的なGHG排出量算定 ● 削減目標設定・計画策定 ● 省エネ・再エネ検討 ● 情報開示高度化 ● Scope3算定準備 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーン GHG削減 ● カーボンニュートラル施策実行 ● グリーン製品開発 ● GXビジネス創出 ● GX投資戦略実行
	GXSS活用例		<ul style="list-style-type: none"> ● GXリテラシー診断と基盤構築 ● 推進人材の初期育成 ● 人材育成ロードマップ策定 	<ul style="list-style-type: none"> ● GXアナリスト・ストラテジストの育成強化 ● 事業部門の巻き込みとGXリテラシー向上 ● GX専門資格取得支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● GXプロジェクトマネジャー・GXコミュニケーターの育成 ● 事業部門GX人材の戦略的育成 ● 全社GXケイパビリティ向上施策
			→ P7 へ	→ P8 へ	→ P9 へ

4.GX取り組み別の実践ガイドライン

4章では、GX状況別の取り組みについて代表的なものを4つあげ、具体的な実践のガイドラインを示します。ステップごとに、各類型の人材が具体的に何を行い、他の人材とどう連携していくのかを整理しています。

<使い方例>

- 自社で検討している取り組みについて、どういう流れで進むのか全体像を捉え、各人材が具体的に何をするのかを把握します。
- スキル標準本紙のロール別、具体的スキルレベルを確認し自社の推進人材がそのレベルにない場合は育成を行います。
- 各ロールのスキルレベルは、自立した推進人材とするならレベル3、指示を仰ぎながら担うならレベル2となります。

4.GX取り組み別の実践ガイドライン

■ 4-1. 取り組み例 1: GHG排出量算定

→ 該当企業: GX推進状況 フェーズ2

1-1: Scope1 排出量算定フロー(直接排出)

STEP 1 排出活動の抽出 各人材の役割分担と 初期連携が重要	STEP 2 活動量の把握 データ収集が中心	STEP 3 排出係数の適用 算定精度を左右する 重要ステップ	STEP 4 排出量の算定 計算作業の中心	STEP 5 排出量の合計と CO2換算 排出量の確定・報告準備
GXストラテジスト GHG削減計画ロール	GXストラテジスト GHG削減計画ロール	GXストラテジスト GX情報開示ロール	GXストラテジスト GHG削減計画ロール	GXストラテジスト GX情報開示ロール
算定の全体方針・範囲を 決定し、経営層の 承認を得る	データ品質要件 (精度、網羅性など) を設定	公的排出係数を使用か 自社測定値を採用か、 基本方針を決定	算定方法の最終確認と 承認	最終結果を承認し、 活用方針を決定
<ul style="list-style-type: none"> 算定方針・範囲の決定 排出活動の抽出方針の策定 重要性の高い排出活動の特定 	<ul style="list-style-type: none"> データ収集方針の決定 データ品質要件の設定 算定範囲の最終確認 	<ul style="list-style-type: none"> 排出係数選定方針の決定 実測係数採用の判断 算定方法の妥当性確認 	<ul style="list-style-type: none"> 算定方法の最終確認 算定結果の評価方針決定 不確実性の取扱方針決定 	<ul style="list-style-type: none"> 最終算定結果の承認 算定結果の活用方針決定 次年度以降の改善方針策定
GXアナリスト GHG排出量算定ロール	GXアナリスト GHG排出量算定ロール	GXアナリスト GHG排出量算定ロール	GXアナリスト GHG排出量算定ロール	GXアナリスト GHG排出量分析ロール
燃料使用設備や製造プ ロセス、社有車など、自 社の事業活動から 発生する排出源を 網羅的に洗い出し	燃料購入記録や廃棄物 処理量などのデータを実 際に収集・整理	環境省・経産省が公表す る最新の排出係数を調 査し、各排出活動に適 した係数を選定	エクセルなどを活用した 計算モデルを構築し、活 動量×排出係数の計算を 実施	各ガス種別の排出量を GWP値を用いて CO2換算し、 総排出量を確定
<ul style="list-style-type: none"> 事業活動の詳細分析 排出源の洗い出しを分類 算定対象活動リストの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 活動量データの収集・整理 データの欠損・異常値チェック 一次データ/二次データの選別 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な排出係数の選定 資料・ガイドラインの参照 係数の最新性・適合性確認 	<ul style="list-style-type: none"> 排出量計算の実施 エクセル等での計算モデル構築 データ処理と集計 	<ul style="list-style-type: none"> GWP値の適用 排出量のCO2換算 最終結果の検証と集計
GXプロジェクトマネジャー GXプロジェクトマネジメント	GXプロジェクトマネジャー GXプロジェクトマネジメント	GXプロジェクトマネジャー GXプロジェクトマネジメント	GXプロジェクトマネジャー GXプロジェクトマネジメント	GXプロジェクトマネジャー GXプロジェクトマネジメント
関連部門 (生産、物流、総務など) との連絡体制を 構築	データ収集スケジュール を管理し、 各部門からのデータ提出 状況を追跡	係数情報の更新管理を 担当	計算過程の品質管理を 担当	算定結果の文書化と 保管を管理
<ul style="list-style-type: none"> 活動抽出プロセスの管理 部門間調整と情報収集体制構築 スケジュール・リソース管理 	<ul style="list-style-type: none"> データ収集プロセスの管理 活動量データ収集の進捗管理 課題対応とリソース調整 	<ul style="list-style-type: none"> 排出係数適用プロセスの管理 必要な情報・リソースの確保 スケジュール管理 	<ul style="list-style-type: none"> 算定作業の進捗管理 計算精度の確保 算定過程の文書化 	<ul style="list-style-type: none"> 最終確認プロセスの管理 報告書作成の進捗管理 算定結果の文書化
GXコミュニケーター GX渉外・アライアンスロール	GXコミュニケーター GX調達ロール	GXコミュニケーター GX渉外・アライアンス ロール	GXコミュニケーター GX IR・広報ロール	GXコミュニケーター GX IR・広報ロール
各部門必要な協力内容 を説明し、スムーズな情 報収集基盤を整える	現場担当者との パイプ役となり、 データ提供のハードルを 下げる工夫を行う	業界団体や外部専門家 との情報交換を行い、最 新動向を収集	算定方法の説明資料を 作成し、社内での理解促 進を図る	社内報告やESG開示に 向けた資料を準備
<ul style="list-style-type: none"> 関連部門への説明と協力依頼 外部専門家との連携 排出活動特定に関する情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> データ提供部門との連携 記録方法の標準化支援 データ収集の円滑化 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との情報交換 業界団体との連携 排出係数情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> 算定プロセスの透明性確保 算定方法の説明資料作成 社内向け報告準備 	<ul style="list-style-type: none"> 最終結果の報告準備 社内外向け報告資料作成 開示方針に基づく情報整理

i 各STEPのポイント

STEP 1 製造業では製造プロセス別、サービス業では施設や車両別といった分類で漏れなく排出源を特定する。

STEP 2 購買システムや設備管理システムなど既存の情報源を活用し、できるだけ現場負担を軽減する収集方法を確立することが重要。将来的には月次・四半期での収集体制構築も視野に入れる。

STEP 3 化学反応を伴うプロセスや特殊燃料を使用している場合は、適切な係数選定が算定精度を大きく左右するため、必要に応じて専門家の助言を仰ぐことも検討。

STEP 4 初めて算定に取り組む場合は、計算過程を詳細に記録し、将来の再現性と検証可能性を確保することが重要。各部門からの質問に対応できるよう、計算根拠の明確化も心がける。

STEP 5 初年度の算定結果は基準年として重要なため、算定プロセスの振り返りと課題特定もを行い、次年度の改善につなげることが効果的。